

2020年9月22日

東郷えりか著『埋もれた歴史』紹介

上原 昇 (2組)

本HPの7月28日付けで布施修一郎君(6組)が『日本を開国させた男、松平忠固』(関良基著)の紹介記事を載せている。上田藩第8代目藩主の松平伊賀守忠固(忠優から改名、1812~1859)は江戸幕府老中を2度務めている割に知名度が低いのは、姫路藩主酒井家からの養子で上田に縁が無かったからか。

この本がきっかけとなって、忠固が見直されると面白いと思う。

今月、『埋もれた歴史：幕末横浜で西洋馬術を学んだ上田藩士を追って』という本が発行された(発行(株)パレード、1800円)。著者は東郷えりかさんという横浜在住の翻訳家で、歴史の専門家ではない。いわゆる、東郷さんのファミリーヒストリーともいえる内容だが、その膨大にして精緻な調査には驚く。

この本にも松平忠固をはじめ、幕末から明治の初期にかけての上田に関わるいろんな人や逸話が出てきて興味深い。

例えば、上田郷友会、布施君が会長の明倫会、関東同窓会の赤松小三郎研究会のことや、同期の村田政夫君(11組)の実家、海野町の「村田靴店」、同じく小嶋修一君(10組)家の屋号「鍋大」なども登場する。

特に、歴史に興味をお持ちの人にはお薦めしたい本である。

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000063.000046294.html>

